

(第三種郵便物認可)

総合

繊維ニュース

AAP19秋冬展

サステイナブル訴求

新たな縫製技術の提案も



サステイナブル素材、副資材で製品化

アジア・アパレルものづくりネットワーク(AAP)は明日2月1日(木)で、東京都渋谷区のオーダー・オブ・メリット・プランニング(OMP)で「AAP19秋冬展」を開催している。AAPはアジアに進出した縫製工場を中心に会員数は61社。第4回展の今回は、11社が出展し、製品約100点を展示。サステイナブル(持続可能なモノ)

作り、デジタル化、新たな縫製技術を訴求した。サステイナブルな製品は、会場中央に設置。セッタップの生地はノンミュールジキング、牧場の土壌環境保護、労働環境の順守など定められた原則に則ったRWS(レスポンスブル・ウール・スタンダード)ウールを使用する。プラウス生地は農業使用を削減したBCI(ベター・コットン・

イニシアティブ)コットン。ボタンやミシン糸も生分解性で、裏地はキュブラを使った。出展者の吉岡(岐阜市)も、リサイクルポリエステル(裏地)やユキワタ、フッ素フリー・ゼロホルマリンの芯地、バイオマスをプラスタックボタンなどを出品。「アパレルの今後のサステイナブルなモノ作りをサポートする」と言う。

デジタル技術を提案したのはアパイル(東京都世田谷区)。今回の出展製品のパターンデータを3Dソリューションシステム「クラウドウェア」に取り込んだ。生地は自動計測マシン「フアブリックアナライザー」で生地データもインプットすることで、体形や姿勢なども変更できるアバターが着用し、リアルなサンプルとして画面に登場する。サンプルコスト削減、リードタイム短縮などのメリットが出る。システム費用は標準で約600万円。昨年からは販売するが、一部アパレルが採用している。

サンティクス(岐阜県関市)は、無縫製技術を駆使したメンズジャケットを提案する。超音波レーザーを使ってテープで接着する加工法により、縫い代による引っ掛かりがなく、生産のスピードアップも。素材には、ポリエステルやポリトリメチレン・テレフタート(PET)繊維「ソロテック」を採用し、「ハイテクスポーツカジュアル」として開発した。同社は、中国、ベトナム、ラオス、バングラデシュ、インドネシアに縫製の拠点を置く。従来の縫製技術と新規の無縫製技術の両輪で、多様なメンズジャケットを生み出していく方針。ロックス(岐阜市)は、

婦人ジャケットなどを提案。台湾などから素材調達し、特恵関税が適用されるカンボジアでコスト低減を図る。小島クラデシ(岐阜市)は、バンククラデシ工場のスポーツラインを紹介した。